

絵本を見て、読んで、聞いて、
子どもにたくさんの夢を見てほしい



profile

昭和19年11月23日生まれ。趣味は読書や俳句を詠むこと。書道は師範の腕前を持っています。入江1区在住。75歳。

Spotlight

スポットライト



絵本の玉手箱 代表

佐藤美代さん

「本」を読むことでたくさんの言葉を知ることが出来ます。読んでいると気持ちも豊かにしてくれるので、手放せないものです」
本が自分にとって手放せないものと語るのには「絵本の玉手箱」代表の佐藤美代さん。「絵本の玉手箱」は、町内の子どもたちを中心に、毎月母と子の館で3回、あぶた読書の家で1回「絵本と子どもが主役」をキャッチフレーズに活動しています。

佐藤さんは愛知県の出身で、ご主人の転勤で札幌に家を移しました。51歳のときに雪がなく住みやすい土地を探していたところ、洞爺湖町を紹介され、洞爺湖の景色に感動し、洞爺湖町で暮らすことを決めました。
「絵本の玉手箱」は平成30年に会員7人で設立。「子どもたちが、絵本の絵を見ることや話を聞くことでさまざまなことを吸収して、玉手箱のようにたくさんの夢を見るこ

とができればいい」と名前に込められた願いと活動の思いを話します。

「人生で絵本を読む機会は何度かあります。私は、子どものときに自分で読んだり、読み聞かせを聞いていました。親になっても自分の子どもに絵本を読み、今は町内の子どもたちに読み聞かせをしています。同じ本でも感じ方はそのときによって変わってきます」と自分の人生と絵本の関わりから、生涯楽しめるのが魅力だと言います。

「外で子どもに会ったときに自然と話しかけてもらったり、最初は本に関心がなかった子どもが興味を持ってくれたりするとうれしいです」と子どもたちとの関わりにやりがいと自分の生活の充実を感じています。

活動をしていく中で子どもの保護者から「子どもが自由に遊べる環境」が町内には少ないことを知り「自分たちの活動を子どもの遊び場や保護者の交流の場として活用してほしい」と語ります。

東奔西走



洞爺湖温泉ではイルミネーショントンネルが点灯されました。寒空の中、温泉街を照らすイルミネーショントンネルはとてもきれいなので、足を運んでみてはいかがでしょうか。(C.K)

今年も残こすところ3週間余りとなりましたが、皆さんにとってどんな1年だったでしょうか。私は「終わり良ければすべて良し」となるように最後まで頑張ります。(M.O)

今月のワンショット



納豆詰め放題などのイベントで盛り上がった町民感謝祭